

都道府県番号	4
都道府県名	宮城県

【 ①■ ②■ ③□ 】

I 学校名及び規模

学校名	志津川町立志津川小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	3	3	2	16	23
児童数	77	75	67	66	84	81	4	454	

II 研究の概要

(1) 研究主題

確かな学力の向上を目指した指導の工夫
～算数科の少人数指導を通して～

(2) 研究主題設定の趣旨

「生きる力」を心の面から支える確かな学力を身に付けさせ、向上させることは家庭、保護者の期待や願いであると同時に、学校教育に対する要請である。算数科に対する児童の状況は、基礎的・基本的な事項が十分身に付いていないため、学習意欲や理解の程度に個人差が大きく、学年が上がるにつれて理解の程度の差が大きくなりがちである。そこで、児童個々の習熟の程度に応じた指導や個別指導など、きめ細かな指導により基礎・基本の確実な定着を目指すという少人数指導のねらいの中で、児童の算数科における確かな学力を身に付けさせたいと考え、本主題を設定した。

III 研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

① 研究組織と活動内容

組織	構成	主な活動内容		
研究全体会	全職員	・研究主題に迫るための全体研究の方向の決定・共通理解を図るための理論研究 ・授業研究についての事前、事後検討・各学年部、専門部の取り組みの確認		
研究推進委員会	研究推進委員	・研究の立案、検討・全体研究の企画、運営・各学年部、研究部の連絡、調整		
学年部会	各学年担当	・学年部の指導の手立て等の設定と指導法の工夫・授業研究の指導案作成 ・授業研究の実施、授業の分析と考察、反省 ・教材開発（発展的な学習、補充的な学習場における教材開発など） ・少人数指導等を生かした指導計画の作成 ・算数的活動の工夫・特別支援プロジェクトの計画、実践		
専門部会	指導研究部	専門員 ・文献、先進校等の理論研究と提案・算数の指導に関する研究と提案 ・指導案、指導過程等の基本形の提案 ・評価規準や評価方法についての研究と提案 ・少人数指導に関する研究と提案・各学級担任との時間調整、連絡調整の工夫		
	調査資料部		調査部	・各調査の実施と結果の考察及びその活用の工夫 ・児童の姿容の調査（学力検査、児童・教師・保護者の意識調査等）
			資料部	・年間指導計画作成の提案 ・資料、情報、記録の管理・保管
	地域連携部		・家庭、地域との連携・地区学力向上推進協議会との連携 ・情報の発信体制の確立	

② 少人数指導実施計画

本校独自の実施計画を作成し、職員の共通理解に基づいた少人数指導の実施。

平成15年度 少人数指導実施計画

1 少人数指導の目的

児童個々の算数の能力に対応した少人数指導を行うことによって、児童に分かる喜びを味わわせ、学習への意欲を高めると共に、より一層の学力を図る。

2 週あたりの少人数指導時間について

- ・1～3年生は3時間。残りの時間の指導は学担当が行う。
- ・4～6年生は3時間。残りの時間の指導は学担当が行う。

3 指導形態とコース名と使用する教室について

(1) 指導形態

- ・2人体制・・・学担当+担当
- ・3人体制・・・学担当+担当+応援の先生（1～3年＝教頭・4～6年＝教務主任）
- ・オープン体制・・・学担当2+担当+教務主任、教頭
- ・TT

(2) コース名

- 「じっくり」（つまずきに配慮しながら、基礎学力を伸ばすコース）
- 「どンドン」（考える力や計算力の一層の向上を目指すコース）
- 「チャレンジ」（3人体制の時のみ。「どンドン」よりも更に一層の考える力の向上を目指すコース）

(2) 研究の実際

① 研究仮説に基づく授業実践

ア 仮説1：発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発を工夫する。

- ・ 発展的な学習や補充的な学習のための教材の適切な選択と自作の学習プリントづくりに努め、児童の習熟の程度に応じた教材の開発と年間指導計画の中へ適した教材を位置づける。
- ・ 既習事項の確認や解決の見通しをもたせるための算数コーナーの充実を図る。

イ 仮説2：個に応じた指導のための指導方法・指導体制を工夫する。

- ・ 操作活動などを含めた算数的活動を多く取り入れ、活動の楽しさを味わわせながら日常生活との関わり中で教理的処理のよさに気づかせる。
- ・ 習熟の程度に応じた少人数の学習集団の編成と柔軟な指導体制を工夫することによって、児童の理解やつまずきに応じたきめ細かな指導を展開する。

ウ 仮説3：児童の学力の評価を生かした指導を工夫する。

- ・ 評価累積表を活用し、評価規準に基づく継続的な評価を実施する。その評価を指導方法の改善や児童のコース選択の基準に生かす。
- ・ 本時学習内容を確認する問題や自己評価を合わせた振り返りカードの活用を図り、授業の理解の程度を児童自身が把握できるようにする。

② 学力向上を目指した校内体制の工夫

ア 算数スキルタイムとサポートタイムの充実

- ・ 特に計算力の向上を目指し、基礎的・基本的な内容を中心にし、その理解と習熟を図ることを目的に朝の算数スキルタイムを設定した。
- ・ スキルタイム実施に当たっては、系統的な指導を目指しスキルタイム年間指導計画とともに、学年に応じたスキルプリントを作成する。
- ・ 補充的な学習を行う場と時間を児童に保証することを目的に、算数科を中心として、週1回放課後のサポートタイムで個別指導の充実を図る。

イ 特別支援プロジェクトの取組

- ・ 少人数指導や担任の個別指導でも学習のつまずきが解消されない通常学級に在籍する児童に対して、適切な支援を行うため指導の時間確保と支援体制を工夫する。

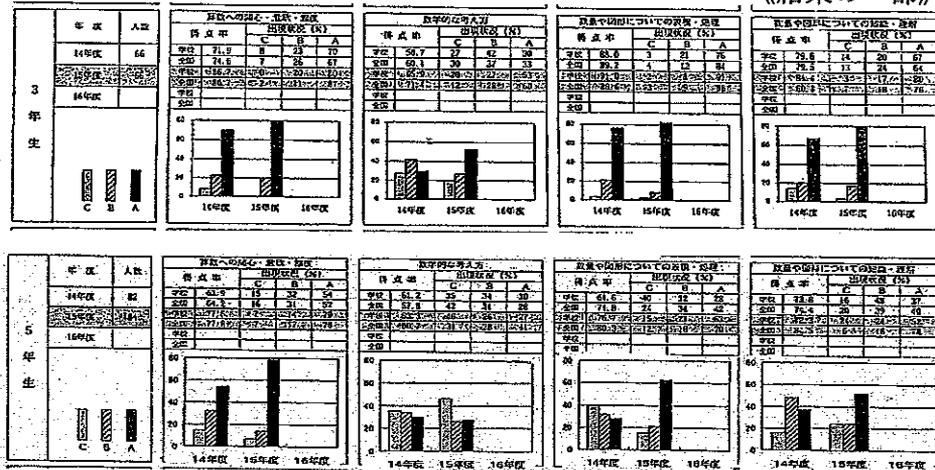
(3) 研究の成果と課題

① 研究の成果

○ 教研式学力検査:の結果から (平成14年度, 15年度の学年比較)

- ・ 各観点について全体的な傾向としてA(十分満足)の割合が増えた。
- ・ 全体的に算数への関心・意欲の面で高まり見られた。特に, 3~6年生で, 「関心・意欲・態度」の観点でAの割合が増えた。
- ・ 2~6年生で「表現・処理」「知識・理解」の観点でAの割合が増えた。
- ・ 3~6年生で「数学的な考え方」の観点でAの割合が増えた。
- ・ 2, 3年生はすべての観点についてよい結果がでている。

《結果の一部》



○ 意識調査の結果から

- ・ 児童の意識調査から, 全体の60%以上が算数の学習が「とても好き」「好き」としている。その理由として, 「よく分かるから」「計算が好きだから」「テストの点数がよいから」などをあげている。また, 少数指導を70%以上の児童が楽しいとしている。「分かりやすくなった」「発表しやすい」「自分のペースで勉強できる」ことなどをその理由としている。
- ・ 保護者の意識調査から, 全体の86%が少数指導に賛成であり, 指導に対する期待が高い。

○ 市販テストの結果の状況から(毎学期集計)

- ・ 学年平均で期待値以上の得点を得ていることから基礎・基本を確実に身に付けてきていることがうかがわれる。

② 今後の課題

- ・ より効果的な少数指導の在り方をさらに研修し, 個に応じたきめ細かな指導による学力の向上を図る。
- ・ 発展的な学習や補充的な学習の時間の確保と有効な教材の開発に努める。
- ・ 評価累積表の活用を図るなどして, 学力の評価を生かした指導の充実を目指す。
- ・ 研究の成果について, 一層情報発信するよう努める。

(4) 研究成果の普及の方策

- ・ 平成15年 6月8日 公開研究会開催
- ・ 平成16年10月8日 公開研究会開催予定
- ・ 学校HPの開設と研究成果の情報発信 (<http://shizugawa-e.myswan.ne.jp/>)
- ・ 管内小学校教育課程研究協議会で研究概要の説明
- ・ 町内教育研究会・郡内教務主任会で研究概要の説明
- ・ 郡教育研究会, 算数部会で研究概要の説明
- ・ 県教育研修センター教育データライブラリーへの実践資料提出
- ・ P T A総会・授業参観等での保護者への研究成果の情報公開

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 ■ 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 ■ 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T. Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 ■ 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

- ・ 児童の習熟の程度に応じたコース編成と指導の違いを明らかにした指導案及び指導過程の工夫